

窓

— 同窓会だより —

No. 101 (平成 28. 2. 29発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



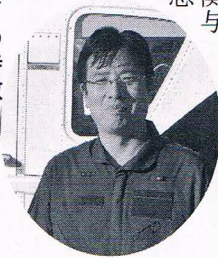
- 1・2面 同窓生寄稿
- 3・4面 各地区報告
- 5面 同窓会総会講演
- 6面 室井滋さん来校、特攻隊手記寄贈

ドクターヘリの導入

適切に救急医療を行うためには、(病院に到着前から行う)病院前医療、(病院到着後の)救急外来での医療、そして(手術治療などを含む)入院治療が連続的に行われることが必要です。これまでの日本ではこの病院到着後の「待ちの救急医療」の部分だけが重要視され、富山県においては医師が関与する病院前医療はほぼ皆無に近い状態でした。しかし、出来るだけ早期に消防と連携を図り、現場から医師を関与させた方が救命率の向上、後遺症の改善につながる事が分かっています。そのためドクターヘリなどによる病院前からの医師が関与する「攻めの救急医療」の必要性が叫ばれるようになりました。

機体(富山県ドクターヘリ)の特徴

今回、富山県ドクターヘリとして導入された機体は、スイスのアルプスの山岳で活躍しており、実際運航開始後、約2500mの室堂付近の患者さんの治療にもあたり、「日本一の高山対応」をしています。最高速度は時速約290kmの「日本最速ドクターヘリ」で、要請から4分5分で富山県立中央病院を離陸し、富山市を中心に半径約50kmというまとまりのよい県全域を約10分間(要請から約15分)でカバーします。また、冬季などの悪条件下でも出来るだけ安全に飛行が出来るよう、雪のエンジンへの吹き込みを防ぐフ



イルターや、視界をより見やすくするための赤外線装置、自動操縦装置などが同機体には整備されています。

医師を患者のもとにいち早く届ける新システム

とかくドクターヘリは、遠距離の搬送手段と誤解されますが、ドクターヘリの最大の役割は医師をいち早く患者のもとに送り届けることです。通常、救急外来に搬送された患者さんは、まず呼吸や血圧の状態を安定化させるための治療を受けつつ診断が行われ(救急初期診療)、次の段階で手術などの決定的な治療が行われます。

富山県にドクターヘリを導入!

小倉憲一 (魚高39回)

富山県立中央病院
救命救急センター部長・センター長

要請から10分、15分で富山県の至るところに突如として現れる「空飛ぶ救命室」です。本当の意味で救命医療を行うためには要請から15分以内に患者さんと接触しないといけません(世界共通の15分ルール)。恵まれたコンパクトな地形を背景に富山県ドクターヘリは、現在、日本の中で唯一「攻めの救急医療」15分ルールに挑戦しているドクターヘリとも言えます。

富山県ドクターヘリのこれから
今後、日本全体が航空医療の時代に入っていくことは間違いありません。救急医療を行うためにドクター

この救急初期診療を行っているのがドクターヘリです。脳卒中や心臓発作、大動脈解離や重症外傷などの分刻みで命が削られる患者さんでは、この初療が分単位でいち早く行われるかどうかで、命が助かるかどうかや後遺症の程度が決まる場合が少なくありません。富山県ドクターヘリは、



立山での訓練

ヘリで県内を約10分でカバーし、ジェット機で富山と東京を1時間でつなぐという時代もそんなには遠くないかもしれません。

これまで北陸、富山県は救急医療の後進地域としてとらえられてきました。富山県ドクターヘリは「日本の救命医療」を行うドクターヘリとして富山県に登場しました。今後、我々は「ALIFORTOYAMA」を合言葉によりよい運航に努め、多くの方々のご支援を頂きながら富山県ドクターヘリをさらに発展させ、ドクターヘリを一つの象徴として富山から先進的な病院前医療を日本、世界に発信していくことを強く願っています。

ネパール支援を続ける思い

富山医療福祉専門学校 作業療法学科専任教員

渡邊 純子 (魚高49回)



作業療法士(OT)として
青年海外協力隊に参加した
のは2008年であった。
海外に興味を持ったのは高
校2年生の時。英語の授業でマザー・テレサが
コルカタで貧困や病気の人々の救済活動に一生
を捧げる話を読み、「インドに行きたい」と思
った。実際、コルカタ行きが実現したのはその
10年後であるが、21歳の時、タイのスタデー
ツアーに参加し、村でホームステイを体験した。
初めて出会う言葉や生活習慣に触れることが、
私の胸を躍らせた。その後、何度もタイの村へ
足を運ぶようになり、ある日、障害のある方と
出会った。その頃、OTの学生だった私は、彼の
生活に非常に興味を持った。OTとして異文化に
触れてみたいと思ったのである。

青年海外協力隊員としてパキスタンとネパールで活動した。実際、現地に赴いてみると、活動することはそう簡単ではなかった。現地の人にとって意味のある活動を見つけられなかったり、協力して活動を展開できなかつたり、価値観の違いに戸惑うことが多かった。しかし現地に合った方法を模索し続ける中で、現地の人の考え方の背景を知ることができ、価値観の違い

に面白さを感じるようになった。また、OTとして求められる知識や能力も日本と全く違うものであった。そのため、その国の宗教や歴史、社会や生活状況等の様々な視点から、幅広く作業療法を捉えていく考え方を学ぶことができた。

「国際協力がおもしろい!!」と感じた私は、帰国後も日本ネパール教育協力会というNGOで活動を続けている。国際協力で学ぶ考え方は、日本で仕事をする上でも活かせることが多々あると感じている。今後も、OTとして人間として成長していきたいと考えている。



障害のある子どもたちと新聞紙で帽子作り(ネパール)

東北支援に携わって

兵庫魚高会 副会長

金川 明嗣 (魚高12回)



の仲間と一緒に

兵庫県青少年本部主催の「こころ豊かな人づくり神戸500人委員会」ボランティアグループの一員として14名南三陸町平成の森仮設住宅を

訪問しました。集会所で、自治会役員の皆さんと交流会を持ち、夕食を共にしました。自治会長の畠山さんから震災直後から現在までの仮設住宅の状況をお聞きしたのですが、住民の要望は、今ではハードからソフトに変わってきているとのことでした。



南三陸町では77歳から敬老会に呼ばれます。震災発生当初77歳以上だったのは住民570人中77人。現在は340人中61名、と高齢化が進んでいます。住民の皆さんは外へ出る習慣があり、皆、元気です。また、住民とボランティアの人の結核が2組ありました。しかし、いまだに家族が行方不明で、現在も一片の遺骨でも見つければと思つて毎日を過ごされている人や、海へ行きたくないと思つている人が、まだまだたくさんいると話され、身につまされました。翌日は、午前中に集会所で住民の皆さんとフラワーアレンジメントを作ったり、お茶を飲みながら歌を歌ったり、腹話術で楽しんでもらいました。

集会所に『蜆窓』と魚高生の活動中の写真(注)が展示されています。畠山さんに御礼をしましたところ、逆に、「こちらこそありがとうございます」と

それぞれの活躍の地で... 久々の再会

各地区報告

東京
近畿 富山



「(注)昨年、一昨年、本校が中心となって発足した「東北の今を知らうプロジェクト」に参加した生徒が平成の森仮設住宅を訪れ、住民と交流した。写真とは、そのときに撮影したものだ。」

「(注)昨年、一昨年、本校が中心となって発足した「東北の今を知らうプロジェクト」に参加した生徒が平成の森仮設住宅を訪れ、住民と交流した。写真とは、そのときに撮影したものだ。」

第16回魚高会東京支部 総会・懇親会

6年ぶりの開催

美 浪 節 (魚高22回)

平成27年度定例総会・懇親会を11月1日市ヶ谷私学会館アルカディアにて6年ぶりに開催し、12名会場一杯のご出席で親睦を深めました。魚高同窓会本部から千田会長、國香校長、東京富山県人会連合会から常務理事伊東様らのご臨席を頂きました。第1部は芳尾副会長の司会で進められ、総会議事に先立ち、今年の開催迄に逝去された会員のご冥福を祈り全員で黙祷を捧げました。最初に長谷川支部会長が挨拶、定例開催が大幅に遅れたお詫びと今後の新世代運営体制への期待と抱負を述べました。ご来賓を代表して千田会長が祝辞、國香校長より現状報告と生徒達の企業訪問受け入れ協力依頼が述べられました。今年度の総会議案、退任役員承認及び新役員選出承認の件が提出され、出席会員皆様の拍手で議案承認されました。新会長第22回生升方様より抱負が述べられ、新役員一同の紹介が成されました。

第2部懇親会に入り、司会役を元北日本放送アナ金澤敏子さんと新事務局長美浪が務め、東京富山県人連合会常務理事伊東様(5回卒)の乾杯の発声で賑やかに開宴。澤崎魚津市長(19回卒)か

らのご祝電を披露させて頂きました。ご講演来賓者の上野恭子(魚津駅前市観光案内所コンセルジュ)様から「北陸新幹線時代と市観光案内所の発信すること」と題して講演を頂き、東京からの旅行者動向、蜃気楼見学者が一番多いこと、若い世代旅行者への魚津からのご案内事項などについてお話し頂きました。また観光案内所の新しい観光スポット等のパンフレットも頂きました。その後、司会者より最新の母校を取材した様子を大型スクリーンで映し、歴史ある講堂や最新校舎の設備、同窓会の記念寄付施設などを紹介し同窓生の母校への熱い思いと多くの新しい校舎に触れての、時代の移り変わりを皆様と共に感じたことでした。その後卒業生からのプレゼント品の抽選会があり、特に第13回生の経営する銀座の居酒屋さんの5千円食事券5枚提供では、大変会場が盛り上がりました。

当選されたご年配の方から久し振りに銀座へ行く、との喜びの声もありました。後半の締めとして元応援部で新副会長の名古屋様による校歌斉唱、エールがあり、母校校歌を皆様と共に熱く歌い、前会長長谷川様(6回卒)の万歳三唱、5回生高見様の一本締め、新副会長のひとり大和様の閉会の挨拶で11時から13時半の予定通り終了し、次回の再会を楽しみに解散しました。

平成27年9月
魚津国際カントリーにて開催

第17回魚津高校同窓会ゴルフ大会

個人成績

優勝	本井	博信
次勝	北原	俊郎
3位	谷口	直樹夫
4位	女川	憲夫
5位		四十物直之

団体成績

優勝	女川	憲夫
	扇谷	一郎
	金山	正昭
	寺崎	稔



やりました!!

第6回近畿地区 秋の交流会・懇親会

平城京のロマンを追って

奈良魚高会会長 谷川 拓 至(魚高9回)

第6回近畿地区魚高会秋の交流・懇親会が、10月24日奈良市で開催されました。近畿地区に在住の魚津高校同窓生の集いとして、2年毎に各府県が輪番で担当しています。幸い晴天に恵まれ、「あおによし奈良の都は咲く花…」の千三百年前の平城京のロマンを追いました。まず散策ではガイド付きで、普通組と健脚組の2組に分かれ、普通組は近鉄大和西大寺↓秋篠寺↓西大寺(本堂・塔跡)↓懇親会会場で参加者は8名、健脚組は近鉄大和西大寺↓海龍王寺↓法華寺↓東院庭園↓平城京跡(大極殿・朱雀門)↓懇親会会場で参加者は13名でした。散策後は花惣(活魚料理)で懇親会が行われ、2名が合流し、計23名が参加しました。谷口佳紀夫奈良幹事長の司会で、谷川拓至奈良会長の開会の挨拶後、三井信義大阪会長、室澤基範兵庫会長の挨拶、沢泉国雄(魚高1回卒、奈良)の音頭で乾杯、懇親会ではアカペラでのカラオケ、自慢話のご披露があり、校歌斉唱、万歳三唱で大変盛り上がりました。最後は谷川拓至奈良会長の閉会の挨拶で終了しました。遠く魚津の地を離れて長くなりま



すが、近畿地区で活躍の同窓生の方々と交流することができとても楽しい思い出になりました。

故郷 魚津に140名集う

平成27年度魚津高校 同窓会総会



総会は、8月15日、ホテルグランミラージュにて140余名が出席して開かれました。

千田則行会長が、「同窓会誌『蜆窓』が100号となった。皆様のご協力に感謝したい」と開会の挨拶を述べ、続いて國香正稔校長が、「耐震工事で本校舎とプレハブ校舎に分かれて生活していたが、9月からは三つの

学年が一緒になる。刺激し高め合ってくれることを期待している」と学校の近況を報告しました。

次いで、若林忠嗣氏を議長に議事が進められ承認されました。

その後、(株)四十物昆布社長四十物直之氏(24回卒)により「昆布と北前船」と題して講演が行われ、富山県が消費1位の座を占める昆布について、その産地や歴史、海外展開の様子など多岐にわたるお話を拝聴しました。

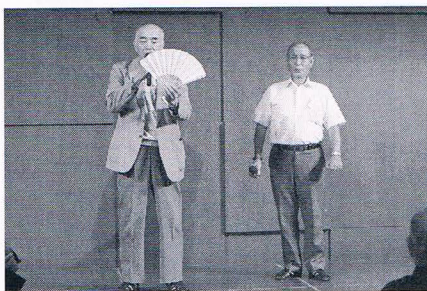
懇親会は、幹事学年代表濱元克吉氏(46回

卒)の挨拶で始まり、千田会長の挨拶の後、澤崎義敬魚津市長、佐々木基安PTA会長の祝辞、室澤基範兵庫高会会長の近況報告と続き、澤田壽朗元滑川市長の発声で乾杯、和やかな雰囲気の中で親交を深めました。

魚中、魚女の各校歌が斉唱され、在学当時の応援団長のエールのもと、魚高校歌を高らかに斉唱しました。



幹事引き継ぎの挨拶は若林健嗣氏(47回卒)が述べ、中尾哲雄名誉会長の「母校の小学校がなくなる悲しみを味わっているが、魚高の同窓会では元氣を得た」との言葉に、母校に集える幸せをかみしめ、連帯の絆を一層強めて会は幕を閉じました。



平成27年度同窓会総会講演あらまし

昆布と北前船

(株) 四十物昆布社長

四十物 直之氏 (魚高24回)



前船の寄港地だったからだ。また、黒部市生地は貧しい漁村で、北海道への出稼ぎが奨励され、利尻島のように人の住まないようなところを富山の人が開拓した。知床半島の羅臼町は、ユネスコの世界遺産となり、観光地となっているが、羅臼町の人口の70%は生地出身者である。それで羅臼昆布が大量に入ってくる。

富山の昆布の消費量は、平成24年度まで53年間全国1位だった。しかし、平成25年度は京都が1位で富山が2位に下がった。それは総務庁の統計の取り方に原因があった。平成26年度は再び富山が1位、2位が福井、5位に京都という結果だった。

昆布は、北海道周辺、青森や岩手の一部、樺太、千島列島、沿海州にある。中国では100%養殖で、日本の7倍の昆布を作っているが、水が悪く海水の温度も高く、一年物しかできず、いい昆布にはならない。調味料の味しかせず、昆布そのものの味がしない。スーパーマーケット

トなどでの表示は、中国産は原材料名が単に昆布としか書いてない。国産のものは、北海道産、根室産、釧路産、日高産などと書いてある。

昆布の効能として、がん細胞の自己消滅の誘導や老化防止などがある。2009年12月18日付の日本経済新聞に、昆布には、インフルエンザの増殖抑制効果があると書かれていた。昆布のフコイダンがさらにそれを促している。医学の世界でも昆布が研究され、体に良いことがわかってきた。

昆布料理として、とろろこんぶのおにぎりは富山の独特のもので、東京の講演会でも大好評だった。また、ニシンのコンブ巻きや、昆布じめのほか、煮しめ昆布は正式名が長昆布で棹前昆布と言われ、軟らかくておいしい。

2011年、フランスのリヨンで開かれたシラ国際食産業見本市へ羅臼昆布を持って行った。ここで世界一のレストランと知り合うことができた。行つた甲斐があった。オーナーのレゼツピが昆布を探していたが、ひと月に私から60キログラムの昆布を買ってくれている。またレゼツピは、フェイスブックに昆布の創作料理を載せている。

ところで、米田屋次郎吉は長者丸に昆布を積んで遭難した。この貿易は、薩摩に頼まれて、富山の密田家が密貿易の手伝いをした。密貿易は、日本海を通る通常の西廻りではなく、太平洋廻りで、昆布を薩摩に運んだ。薩摩はこれで財政破綻を再建した。500万両、今の6000億円ほどの借金をたつた二十年、三十年で返

した。そうして江戸幕府を倒し明治維新を迎えたが、その裏には昆布の力があつた。昆布で歴史を動かした。

私は、次郎吉が助けられたハワイで、1840年10月17日付けのポリネシア新聞を見つけた。それを見ると、次郎吉が数字の話をしている。2はNE、10はZU、11はZ U I C Hとあり、これはまさしく越中弁である。

北前船は、海に浮かぶ百貨店である。どこで物を買ったら安く買えるか、どこで物を売ったら高く売れるか、情報の遅れを利用するのが北前船のやり方である。北前船は、板子一枚で下は地獄といういつも命がけの乗り物だったが、一航海で一億円儲けた。また、北前船は物だけではなく、文化も運んだ。松前の春は江戸より栄えた。富山は当時、全国の人口ベストテンに入っていた。

岩瀬の森家の隣に馬場道久の家がある。その妻はるは、北前船で儲けたお金を、今の富山大学、旧制富山高校の設立のために今のお金で50億円から150億円ほどを寄付した。また、小泉八雲のヘルン文庫も寄付し、富山大学に開設されている。

最後に、昆布のPRをしたい。昆布の効用について、薬事法があつて、がんに効くとか、髪がふさふさになるとは言えない。そこでどんな方にお薦めしたいかというところ、活動的な毎日を送りたい方、健康維持に努めたい方、何歳になっても生き生きと過ごしたい方などである。どうぞ昆布を食べてほしい。

室井滋さん母校で講演

本校OGの室井滋さんが12月16日に来校し、在校生を前に約2時間講演をされた。

室井さんは、予餞会で劇の主演を務めたことや、担任の先生に、原稿用紙10枚分にもなる長い手紙を送ったことなど、魚高生時代の思い出を話された。続いて1、2年生の代表生徒4人と、趣味や将来の夢、恋愛の悩みなど様々な話題でフリートークを展開し会場を湧かせた。その後、全体に質問を募ったところ、センター試験を目前に控えた3年生からはスケジュール管理の仕方について質問がされ、室井さんはテレビや雑誌の執筆などで忙しい現在の生活を紹介した上で、時間を上手に使い、日々を元気に過ごすためのアドバイスをされた。

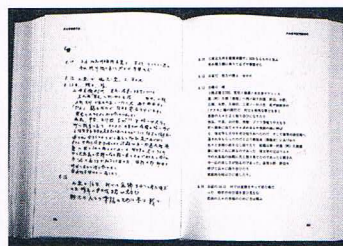


室井さんから寄贈された書籍、DVD

講演会の後、室井さんからは絵本、CDなどが寄贈された。本校図書館に所蔵されている。

若者に読んでもらいたい 特攻隊員の手記寄贈

23歳の若さで亡くなった特攻隊員の手記が1月22日、本校に寄贈された。書いたのは、森岡哲四郎さん(魚中38回)。



森岡哲四郎さんの手記

森岡哲四郎さん(魚中38回)。黒部市大布施地区出身で、東京農業大学在学中に学徒出陣した。直前まで、本校ラグビー部の指導に訪れていた。手記には、出撃直前までの約2年半が記録され、中には厳しい訓練の日々の中で、故郷に思いをはせる記述も見られる。もともと、ノート9冊に綴られていたものを、兄の故實さん(魚中33回)が保管していた。その後、妹の名和まさ多さん(魚女18回)が引き継ぎ、2013年に海上自衛隊鹿屋航空基地資料館に寄贈。関係者から特攻隊員の心情を記した貴重な記録とされ、出版にいたった手記は千部発行し、まさ多さんが、若者にも読んでもらいたいと本校に寄贈した。

魚高生の活躍

(平成27年9月~平成28年2月)

水泳部 ■第48回北信越高等学校選手権水泳競技大会 女子バタフライ200M 川越 梨乃

サッカー一部 ■U-17富山県サッカーリーグ2015 Hグループ 優勝

柔道部 ■第38回全国高等学校柔道選手権富山県大会
男子個人66kg級 3位 松井 建樹

美術部 ■第27回富山県高等学校文化祭 美術・工芸部門 優秀賞 繰菅 沙耶

書道部 ■第40回富山県青少年美術展 書部門 佳作 石岡 樹

新聞部 ■第45回全国高校新聞コンクール 優秀賞(15位)
第62回富山県新聞コンクール 最優秀賞

文芸部 ■第27回富山県高等学校文化祭 詩部門 最優秀賞 魚住 采希
短歌部門 最優秀賞 富山 輝

弁論同好会 ■第62回国際理解・国際協力のための高校生主張コンクール
富山県大会 優秀賞 米島 瑛一

■とやま科学オリンピック2015 化学分野 銀賞 木下 水晶
化学分野 銀賞 前澤 汐海
数学分野 銅賞 江端 健悟

同窓会連絡係 (平成28年度)

- 1組 水島 涼稀
佐伯 未来
- 2組 白又 拓也
牧野 彩花
- 3組 新庄 奨武
(学年代表)
中川 早矢
- 4組 増田 悠人
高橋 梨奈
- 5組 桶川 雅毅
中島菜奈美

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか?自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地
TEL (0765) 22-0221
FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice.tv.jp/~gyokou/index.html>
魚津高校ホームページ
<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>